



図書だより

最上校図書委員会 No.18 1月28日

第三回 朝読書が始まります

期間 2月1日(月)～2月17日(水)
3月2日(火)～3月9日(火)
時間 8時20分～8時30分(10分間)

朝読書の4原則

- ①みんなで読もう！
- ②毎日読もう！
- ③好きな本を読もう！
- ④じっくり読もう！

※雑誌やマンガ以外、読みましょう。

※本は前もって準備しておきましょう。

※昼休み、放課後は是非、図書館にお越し下さい。お待ちしております。



朝読書に新しいジャンルの本も読んでみよう！

「オルタネート」 加藤シゲアキ著

高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須のウェブサービスとなった現代。出会いと別れ、葛藤と挫折、そして苦悩の末、やがて訪れる「運命」の日。3人の未来が、人生が、加速する――。

悩み、傷つきながら、〈私たち〉が「世界との距離をつかむまで」を端正かつエモーショナルに描く。

「みがわり」 青山七恵著

新人賞を受賞したものの小説を一冊も刊行できない律は、ファンを名乗る女性から姉の伝記執筆の依頼を受ける。だがその姉は亡くなっており、生前の姿形は律と瓜二つだという。取材を進めるうち明らかになる姉妹の確執、家族の秘密。律が開けた扉は、パンドラの箱だった。



「滅びの前のシャングリラ」 皿良ゆう著

一ヶ月後、小惑星が地球に衝突する。滅亡を前にした世界の中で「人生をうまく生きられなかった」四人が、最期の時までをどう過ごすのか？



「八月の銀の雪」 伊与原新著

耳を澄ませていよう。地球の奥底で、大切な何かが静かに降り積もる音に。不愛想で手際が悪い。コンビニのベトナム人店員グエンが、就活連敗中の理系大学生、堀川に見せた真の姿とは？

「お探し物は図書室まで」 青山美智子著

お探し物は、本ですか？ 仕事ですか？ 人生ですか？ 人生に悩む人々が、ふとしたきっかけで訪れた小さな図書室。彼らの背中を、不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない本のセレクトと可愛い付録で、後押しします。



「52ヘルツのクジラたち」 町田そのこ著



家族に人生を搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる――。

「白日」 月村了衛著

千日出版の教育部門で課長を務める秋吉に衝撃的な情報が入った。事業を率いる梶原局長の中3の息子が、謎の転落死を遂げたというのだ。子どもたちの未来のために新しい学校をつくる、その志を持って教育事業を推進してきた秋吉の運命は、少年の死の真相は。



「汚れた手をそこで拭かないで」 芹沢央著



気付かぬうちにじわりじわりと、お金の魔の手はやってきて、見逃したはずの小さな綻びは、彼ら自身を絡め取り、蝕んでいく。取扱注意！ 研ぎ澄まされたミステリ5篇の傑作独立短編集。

「母影(おもかげ)」 尾崎世界観著

小学校でも友だちをつくれず、居場所のない少女は、母親の勤めるマッサージ店の片隅で息を潜めている。お客さんの「こわれたところを直している」お母さんは、日に日に苦しそうになっていく。少女は願う。「もうこれ以上お母さんの変がどこにも行かないように」。



高校生が朝読書で

読んでいる人気本!



「君の臍臓をたべたい」 住野よる著

ある日、高校生の僕は病院で一冊の文庫本を拾う。タイトルは「共病文庫」。それは、クラスメイトである山内桜良が密かに綴っていた日記帳だった。そこには、彼女の余命が臍臓の病気により、もういくばくもないと書かれていて――。

「かくしごと」 住野よる著

きっと誰もが持っている、自分だけの「かくしごと」。皆には隠している、ちょっとだけ特別なちから。別になんの役にも立たないけれど、そのせいで最近、君のことが気になって仕方ない。クラスメイト5人の「かくしごと」が照らし出す、お互いへのもどかしい想い。

「また、同じ夢を見ていた」 住野よる著

友達のいない少女、リストカットを繰り返す女子高生、アバズレと罵られる女性、一人静かに余生をおくる老女。彼女たちの“幸せ”は、どこにあるのか。「やり直したい」ことがある、“今”がうまくいかない全ての人たちに贈る物語。

「よるのばけもの」 住野よる著

夜になると、僕は化け物になる。
寝ていても座っていても立っていても、それは深夜に突然やってくる。
ある日、化け物になった僕は、忘れ物をとりに夜の学校へと忍びこんだ。誰もいない、と思っていた夜の教室。だけどそこには、なぜかクラスメイトの矢野さつきがいて――。

「蜜蜂と遠雷」 恩田陸著

俺はまだ、神に愛されているだろうか？
ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春群像小説。

「羊と鋼の森」 宮下絵都著

ピアノの調律に魅せられた一人の青年。彼が調律師として、人として成長する姿を温かく静謐な筆致で綴った、祝福に満ちた長編小説。

「コンビニ人間」 村山沙耶著

36歳未婚、彼氏なし。コンビニのバイト歴18年目の古倉恵子。ある日、婚活目的の新入り男性・白羽がやってきて、そんなコンビニの生き方は恥ずかしい、と突きつけられるが……。

「コーヒーが冷めないうちに」 川口俊和著

お願いします、あの日に戻らせてください――。
過去に戻れる喫茶店で起こった、心温まる4つの奇跡。

「ナヤマ雑貨店の奇跡」 東野圭吾著

ぼくらの書いた手紙が、感動のキセキを起こす!

「暗黒少女」 秋吉理香子著

聖母女子高等学院で、一番美しく一番カリスマ性のあるく白石いつみ>が死んだ。自殺なのか他殺なのか、いつみの手にはすすらんの花が。その一週間後の放課後、集められたのは、彼女を殺したと噂される6人。彼女たちは朗読会を始める。そのテーマは「白石いつみの死について」であった。

「君は月夜に光り耀く」 佐野徹夜著

余命わずかな彼女に、死ぬまでにしたいことがあると知り…「それ、僕に手伝わせてくれないかな?」「本当に?」この約束から、止まっていた僕の時間がふたたび動きはじめた――。

「火花」 又吉直樹著

笑いとは何か、人間とは何かを描き切ったデビュー作。

「金の空想科学読本」

科学と空想(妄想)が好きな方にはお勧め。

「ハリー・ポッター」シリーズ J. K. ローリング著

全7巻からなる、長編。

